

表紙の モデル



たこ 凧 (東北学院大学・民俗玩具研究会制作)

材質: 紙・竹・糸・ビニール

寸法: 縦830×横810×厚さ140(mm)

今回のモデルは、1974年、東北学院大学に発足した、民俗玩具研究会(通称、民玩^{みんがん})で制作された凧です。民玩は、会員の学生たちが子どもの頃に遊んだおもちゃを、自分たちで作り、遊び、研究を行なう会でした。

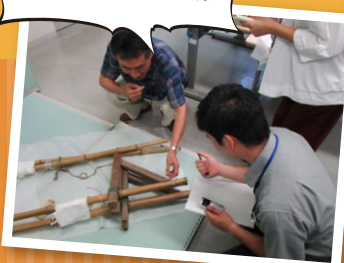
凧は、民玩が手がけたおもちゃのひとつです。会員たちは、自分たちで材料を調達・加工してオリジナルの凧を制作し、土樋の校舎屋上などで遊びました。民玩OBの方のお話では、薄い紙を用いると、強い風にあおられて壊れてしまうこともあったそうです。

本資料は、龍の装飾が施されたカブトをモチーフとしており、一部が破損しています。実際に空に浮かんだと思われる本資料は、当時民玩に所属した学院大生たちの「青春」をいまに伝えてくれる、大変貴重なものです。

バックヤードのひとこま

企画展「青春、民玩!」制作の
舞台裏をご紹介します!

メモとレコーダーは必須!

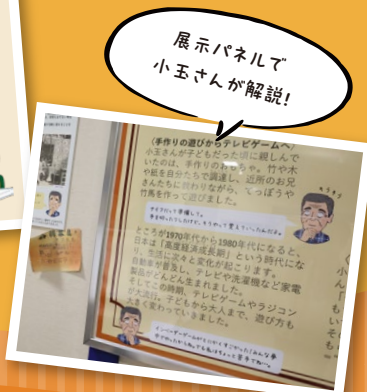


民玩OBの小玉さんに資料を前に聞き取り調査



意外にも
根気のある
作業…!

聞き取り調査で得た
“語り”の文字起こし



展示パネルで
小玉さんが解説!

パネルに“語り”を反映

東北学院大学博物館 情報誌

OTAKU みゅーじあむ

オタクな展示、お宅にいかが?

—— タイトルの由来 ——

東北学院大学博物館が開催するユニークなイベントや所蔵する“ちょっとマニアック?”な資料を紹介する雑誌であり、ご自宅で読んで楽しめる雑誌を目指し、このタイトルにしてみました。

発行日 2024年9月30日

編集・発行 東北学院大学博物館

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

TEL: 022-264-6920

<https://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/tgum>



- 東北学院大学土樋キャンパス内 中央図書館南側
- 地下鉄「五橋駅」下車、愛宕上杉通りを南方向に徒歩5分
- 来館者用駐車場あり(愛宕上杉通り側から)

東北学院大学博物館 情報誌

OTAKU
みゅーじあむ

オタクな展示、
お宅にいかが?



8号

2024.8

2024年度 館園実習成果展

「一平安初期の有力者居宅―大衡亀岡遺跡」展

2024年度の館園実習は、今年は合計35名の学生を受け入れ、8月6日から9月13日までに5班に分けて行われました。今年度のテーマは、平安初期の有力者居宅と考えられる県内大衡村の大衡亀岡遺跡。実習生自らが資料の選定、展示構想の検討から解説パネルの制作、実際に展示するまでの作業を担当しました。

実習の成果を「一平安初期の有力者居宅―大衡亀岡遺跡」と題して9月19日より公開中です。どうぞお立ち寄りください。



開催中!

企画展

「青春、民玩―なつかしの手作りおもちゃ」展

2024.5.7～11.29

2023年度からのプロジェクトが、ようやく企画展としてまとまりました。昭和40年代、幼い日に親しんだおもちゃにもう一度触れ合う機会を作ろうと、東北学院大学の学生たちが発足させた「民玩」―民俗玩具研究会で製作・収集された民俗玩具を、当時の学生への聞き取り調査の成果とあわせて紹介しています。詳しくは中面記事を御覧ください!

企画展関連イベント

ワークショップ

昔なつかし! 東北地方のコマで遊ぼう!

企画展「青春民玩―なつかしの手作りおもちゃ」展の関連イベントとして、東北地方の伝統独楽(コマ)を使った、学生・市民向けワークショップを、以下の機会に行います! 今年度からはじまった「ミュージアムサポーター」の学生がスタッフとして活動します。

① 東北学院大学大学祭「六軒丁祭」

10月26日(土)、27日(日) 会場:東北学院大学博物館

② SMMAミュージアムユニバース

12月21日(土) [予定] 会場:せんだいメディアテーク

いずれも、学生・一般問わず参加可能です。是非お越しください!



新学芸研究員・学生スタッフ紹介

Q.学芸研究員・学生スタッフとは?

A.学芸員のたまご!

学芸研究員は、学芸員を志している大学院生で、東北学院大学博物館における日々の業務(資料整理や展示企画・設営、来館者への展示解説)を通して、学芸員に求められる資質を磨いています。今年度は、学芸員資格を取得済/予定の学部4年生が、学生スタッフとしてこれらの業務に参加しています。

このように、将来学芸員をめざす大学院生・学部生の、実践的な実務経験の場として機能している点が、東北学院大学博物館の大きな特徴です!

9名の新スタッフに

所属・専攻と、「青春、民玩!」展のオススメ資料(民玩)を聞きました!

E.G(学生スタッフ)
考古学ゼミ所属
オススメ民玩:紙鉄砲

G.S(学生スタッフ)
考古学ゼミ所属
オススメ民玩:折り紙

S.H(学生スタッフ)
民俗学ゼミ所属
オススメ民玩:凧

K.A(学生スタッフ)
日本史ゼミ所属
オススメ民玩:竹馬

N.H(新学芸研究員)
自然地理学専攻
オススメ民玩:竹馬



H.A(学生スタッフ)
考古学ゼミ所属
オススメ民玩:竹馬

M.N(学生スタッフ)
民俗学ゼミ所属
オススメ民玩:おしらさま

T.M(学生スタッフ)
日本史ゼミ所属
オススメ民玩:凧

A.Y(学生スタッフ)
ヨーロッパ史ゼミ所属
オススメ民玩:竹馬

／／ よろしくお願ひします! ぜひお気軽にお声がけ下さい! ／／

こうしてできた

青春、民玩！

二〇二四（令和六）年五月から開催の、企画展「青春、民玩！」展示制作チームの中心メンバーである、当館学芸研究員・真柄侑さんに、展示の裏側と見どころについて、語ってもらいました！



●そもそも「民玩」とは

一九七四（昭和四九）年、東北学院大学に発足した「民俗玩具研究会」というサークルの略称／愛称です。民玩は、会員各々が子どものころに触れ親しんだ手作りおもちゃを、自分たちで作って遊んでみたり、研究もしてみたりと、おもちゃを扱っているいろいろな活動をしてきたサークルでした。

今回の展示は、東北学院大学博物館に残されていた、民玩で制作されたおもちゃ資料と、その資料を裏付ける民玩の活動内容を、みなさまにご紹介しようと企画しました。



●「青春、民玩！」企画に至った経緯

当館には、たくさんの方の資料が収蔵されているのですが、じつはその中には、こういった意図や経緯で集められたのか、よくわからないものがあるんです。今回の展示で取り上げたおもちゃ資料も、そのうちのひとつでした。

あるとき、私たち学芸研究員でそうした資料を整理していると「民俗玩具研究会」と付記のある、手作りのおもちゃが何点もあることに気づきました。はじめは、その付記が何を意味するのか分からなかったのですが、よく調べてみると、かつて学院大学に民俗玩具研究会という会があり、そこに所属する会員の作ったものが、博物館に残ったということが分かったんです。

そして幸運なことに、学芸員の先生方の協力もあり、私たちは民玩の発起人の方にコンタクトをとることができ、資料がどのような目的や意図で作られたのか、聞き取り調査を通じて、知ることができました。それだけでなく、当時の活動ノートや写真などをもとに、民玩の具体的な活動内容も教えていただきました。



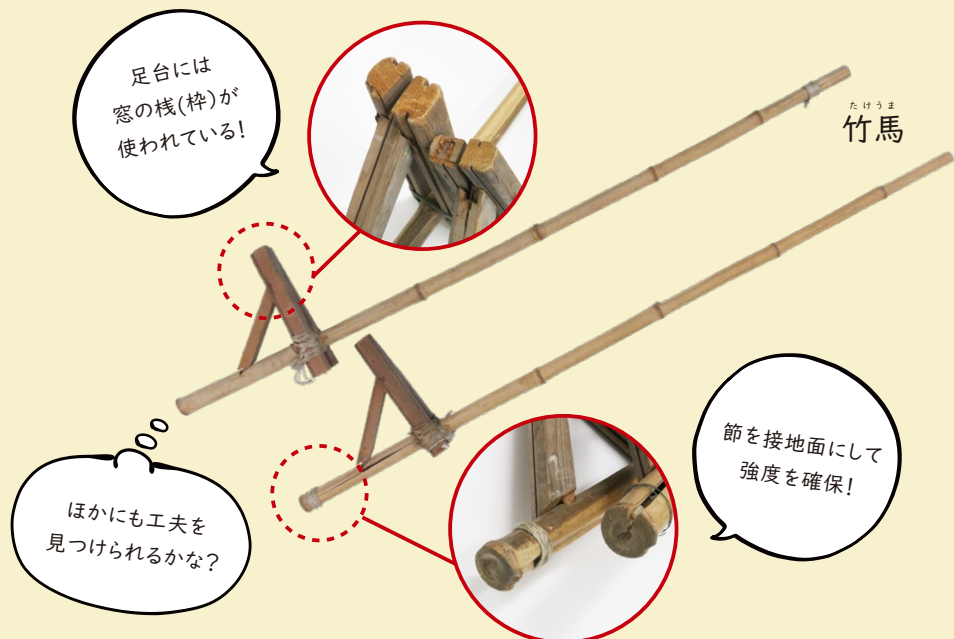
お話をうかがったのは、民玩のOBで、発起人の小玉敏さん。2回にわたって、聞き取り調査にご協力いただきました。



こうした経緯から、当時の学院大生の活動と、その中で生み出された資料の展示を通して、学院大学の歴史の一端もみることができるとは思いません。今回の展示を企画しました。

●展示の見どころ

見どころは、竹馬の材料の工夫です。民玩の皆さんの、おもちゃ作りへのこだわりや、いかにお金をかけずに材料を集めて使うかといった、学生ならではの工夫が読み取れて面白いと思います。よく観察して、作り手の工夫をたくさん見つけてほしいです！



●真柄さんお気に入りの「民玩」

私のお気に入りには、竹製の鉄砲です。展示資料ですと、紙鉄砲になりますが、当時は水鉄砲もあったようで、どちらも民玩で作った初めてのおもちゃなんだそうです。

ポンポン飛ばしあって、ときには失敗もしてワイワイさせていた、当時の学生たちの楽しそうな雰囲気伝わってくる資料だなと思って、お気に入りです！



●いま伝えたい「民玩」の面白さ

今回、展示している手作りのおもちゃは、たくさんの娯楽にあふれている今日、一見すると物足りなさや、手間のかかるものに見えるかもしれません。ですが、それを逆に楽しむことのできる面白さや手法を、民玩のおもちゃが魅力的に語ってくれています。

その点に触れながら、大人の皆さんには少し懐かしい気持ちで、若い世代の皆さんには新鮮な気持ちで、ぜひ展示を楽しんでいただければと思います！